

## 多自然川づくり取り組み事例

|   |                                    |         |
|---|------------------------------------|---------|
| タイトル：弘見川で実施した川づくりの追跡調査について                        |                                    |         |
| 水系/河川名：2級水系弘見川                                    | 河川分類：中小河川                          |         |
| 河川の流域面積：15.5km <sup>2</sup>                       | 整備計画流量：190m <sup>3</sup> /s(W=1/5) | セグメント：M |
| 事業：河川改修   | 事業開始年度 平成23年度                      |         |
| 目標設定：定性的  | 段階：C(モニタリング・評価時)                   |         |
| 課題・目的(主な)：流下能力の確保、礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出、瀬・淵の保全・再生・創出 |                                    |         |
| 工法(主な)：掘削(河床)、護岸整備、その他                            |                                    |         |
| 配慮事項(主な)：その他                                      |                                    |         |

### 背景・課題、目標設定

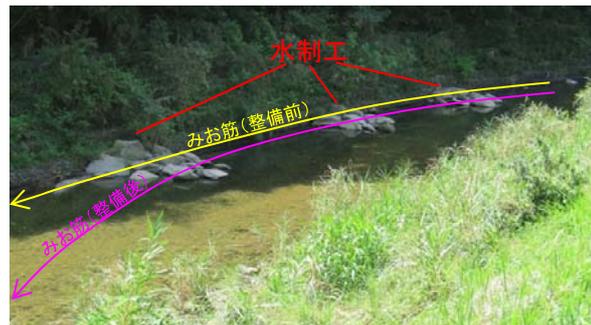
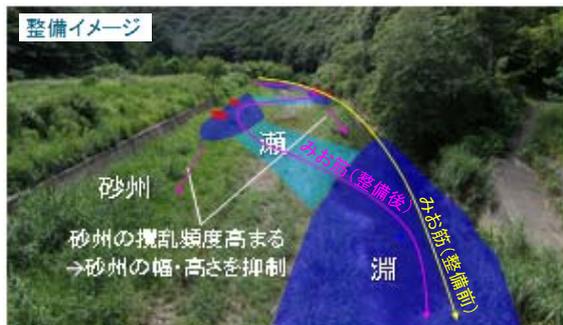
2級河川弘見川では、治水安全度の向上を図るべく、護岸整備や河床掘削を行うなど河川改修を進めている。その一方で河道内では、瀬や淵の不明瞭化、過剰な土砂堆積や植生の繁茂といった状況が見られ、環境面、治水面で課題となっていた。

こうした状況を踏まえH23年度より、「みお筋や瀬・淵の保全・創出」、「土砂堆積や植生の抑制」を目標に川づくりを実施してきた。

### 取り組み内容・対策例

■取組みの概要：河川本来のみお筋の蛇行と河床形態が維持・創出されるよう、計画・施工した。

■具体的な内容：良好な瀬や淵の環境が形成されている箇所では、現状の河床の地形を平行移動することを基本とし、これまでの改修工事によりみお筋・瀬や淵の配置が乱れている箇所では、改修後の河道条件のなかで、できるだけ自然に近い河床環境が形成されるように計画した。また、これらが維持されるよう、水制工等を適宜配置した。※適正な滲筋の蛇行と瀬・淵・砂州の配置を行うことで、人為的な影響により水や土砂の動きが乱れた河道に比べて、砂州(陸域部)の攪乱頻度が高まるなどして、砂州や植生の過剰な発達を抑制できる可能性がある。



### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

詳細な現地状況については調査中であるが、整備区間においては、瀬や淵が比較的良好に保たれている。また、整備区間の一部で、植生の繁茂が抑制されたと思われる箇所も見られた。(今後、調査結果を精査・考察し、整備効果を検証)



### 備考

問い合わせ先 高知県 河川課 治水班

電話番号 088-823-9841

# 弘見川で実施した川づくりの 追跡調査について

Keywords : 河床の二極化, 河床の攪乱, 維持管理頻度



弘見川では、砂州や植生が過剰に発達し滯筋が偏流する、河床の二極化が生じ、治水面（流下能力の低下、護岸・堤防の不安定化）、維持管理面（除草や河床掘削のコスト・労力増）、環境面（瀬や淵が不明瞭）で問題を抱えていた。こうした問題を改善するため、弘見川では洪水の流れを適正に蛇行させるよう取り組んできた。